会報
よろこび
第77号

発行　茨城よろこびの会

http://www.ibasouken.org/yorokobi.html

平成 26 年 7 月 1 日発行

月待の滝（大子町）

平成 26 年度 茨城よろこびの会総会を開催しました

～　飯田　則子会長挨拶より　～

安島名誉会長がお亡くなりになりまして、黙とうをさせていただきます。「・・・黙とう・・・」

今日は、安島名誉会長の奥様がお見えになっていらっしゃいますので、ご紹介させていただきます。安島 さた様です。安島名誉会長は 30 年前にご自身が「がん」に罹り、茨城よろこびの会を立ち上げられました。それから 25 年、会長として皆さんを引っ張り、盛り立ててくださいました。名誉会長のお陰で現在のよろこびの会があります。ここにきて凧の糸が切れたような感じがしまして、あてもなく何処かへ行ってしまうよう・・・大変不安ですが、ここは皆さんで一致団結しまして、益々よろこびの会の発展のために活動を続けていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

今日は、お天気に恵まれ、たくさんの方にご参加いただきまして、ありがとうございます。本日は、総合健診協会経営企画室の戸田次長と新任の亀代 直樹さんが、お見えになっています。亀代さんは、5 年前にも事務局を担当していただき、北海道で行われた全国よろこびの会総会もご一緒しました。また、よろしくお願いいたします。

～　安島　さた様のご挨拶より　～

本日は、よろこびの会総会おめでとうございます。この場をお借りいたしましてお礼を申し上げに参りました。先の葬儀の際には、よろこびの会の皆様方に多数ご会葬いただきまして本当にありがとうございました。特に飯田会長様の弔辞には心打たれるものがございました。ありがとうございました。

早いものであれから五十五日でございます。その間、罪の意識にさいなまれながら、人生の支柱を失い、心に大きな穴があいたまま、ふらふらと残務整理を行ってまいりました。

安島ご夫妻
（平成４年度全国よろこびの会総会参加）

主人は、人を愛し、お酒を愛した本当にやさしい人でした。が、その反面厳しい面もある人でしたので、それなりの苦労もありました。最後まで自分らしさを貫き通した一生だったと思います。よろこびの会には、弱まった身体で命をかけて取り組み、早期発見・早期治療をモットーに相談に応じていたように思います。

私も残り少ない人生を悲しみを乗り越え、生かされていることへの感謝と、主人の冥福を祈りながら前を向いて歩いてゆきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

また、よろこびの会の皆様方も役員さんを中心に一丸となって会の発展のため活動されることをお願いしまして、私のあいさつといたします。

総会議事の報告

会員　田所　厚子

1. 平成 25 年度事業報告について
2. 平成 25 年度決算報告及び監査報告について
3. 平成 26 年度事業計画について
4. 平成 26 年度予算について
5. 平成 26 年度役員体制について

上記の全ての議案について、滞りなく承認をいただきましたことをご報告いたします。

平成 26 年度主な事業計画

日程等	内容	場所等
6／19（木） ～6／20（金）	第 32 回全国よろこびの会総会（1 泊 2 日） 7 名参加	宮城県松島町 松島温泉「松島一の坊」
7～8 月頃	納涼会（暑気払い・食事会など）	未定
9 月頃（目標）	「メンズクラブ（仮称）」の立ち上げと開催	未定
10／9（木）	県政出前講座「循環器疾患について」	水戸赤塚駅前ミオスビル
10／25（土）	第 22 回がんフォーラム 「前立腺がんのロボット支援手術と、今後の展望」	県立健康プラザ
12 月頃	忘年会（未定）	県立健康プラザ（予定）
H27 年 1 月頃	新春よろこびの集い	県立健康プラザ（予定）
2／12（木）	茨城県消費者センター出前講座（内容未定）	水戸赤塚駅前ミオスビル
その他（提案）	※遠距離や交通手段等の理由で、行事等に参加が難しい会員は、地域ごとに集まり、おしゃべり会を開催したらどうか？との案が出ました（現在、水戸地区・常陸太田地区・大子地区で開催を検討中）。	

総会後のアトラクションとして、岩崎 禮子様によるマジックショーが行われました。間近でマジックショーを見ることができ、楽しませていただきありがとうございました。

特集　故 安島 光二 名誉会長を偲んで（平成 26 年 3 月 17 日逝去）

故 安島　光二様（よろこびの会名誉会長）と茨城よろこびの会

会員　田所　厚子

安島さんは、昭和 51 年（1976 年）5 月、胃噴門部にがんが見つかり、その大手術を受け、その後、後遺症に苦しみました。「がん」の原因の 1 つは、遺伝子であることが判明し、「がん」は世界中誰でも罹り、何度でも襲い油断が命取りになる病気です。「私だけでなく多くの患者が悩み苦しんでいる、同じような悩みを持つ人達の集まりを持ってはどうか」と考え、昭和 59 年（1984 年）6 月、茨城県総合健診協会在職中に「茨城よろこびの会」を設立しました。名称は、仙台市「みやぎよろこびの会」を訪れ、同会の名付け親である黒川 利雄先生（集団検診の創始者、文化勲章受章者、元東北大学学長・癌研究会付属病院長）の命名にちなんで「茨城よろこびの会」としました。発足時の会員数は 60 名を超えたそうです。全国よろこびの会にも加盟し、平成 3 年度には、茨城県にて全国大会を開催いたしました。会員同士のコミュニケーションとして、観桜会やブドウ狩り、忘年会、新年会など、当時顧問の村上 穆先生（故 元水戸医療センター病院長）を囲み、アドバイスを受けながら楽しい交流会がたくさんありました。

安島さんは地域への「がん」啓発にも力を入れており、早期発見・早期治療を重視し、「がん検診」を呼び掛け、“がん これだけは知ってほしい”　“セカンドオピニオンを考える”“がん治療最新の進歩”などと銘打ち、「がんフォーラム（計 19 回）」や「がん体験発表（計 6 回）」を水戸市内だけではなく、日立市、土浦市、ひたちなか市、大子町、玉里村（現小美玉市）、石下町（現常総市）など県内各地で幅広く開催しました。平成 15 年（2003 年）には、「女性には女性だけの悩みがあるのでは」と、女性だけの会「レディスピア」を発足し、今年で 12 年が経過しました。

第 1 回がんフォーラムの様子（平成 2 年）

現在までに発行された「蘇葉」、他

また、がん体験記「蘇葉（vol.1～5）」、会報「よろこび（年 4 回）」の発行、「事後管理の手引き」「検査結果の見方」「病気分類について」「細胞診について」などの冊子を作成し、希望者には配布しました。

多くの功績に因み「小平奨励賞」「茨城県功労賞」「全国よろこびの会功労賞」など受賞されています。

会報「よろこび」第 1 号
（昭和 61 年 10 月 15 日発行）

25 年間もの長きにわたり、茨城よろこびの会会長として会の発展に尽くされ、様々なご苦労がおありになったことと思いますが、奥様の大きなお力添えがあり、いつも私達会員にお気持ちを向けてくださいました。大変研究熱心で、お身体の状態が辛い状況にあっても、がんの新しい治療法を会員に届けたいと会報に毎回執筆してくださいました。役員一同、安島名誉会長の意思を継いで、頑張って参りますのでどうぞ見守っていてください。

安島名誉会長のご冥福を心からお祈りいたします。

～ 次のページからは、会員から寄せられたお手紙をご紹介します ～

（敬称は原文のままです）

安島会長ありがとうございました

会員　塚田　せつ

右乳房の切除、リンパ切除とコバルト照射で 105 日の入院治療を受けたのは、昭和 59 年 45 歳の時でした。その後、元気になって復職し、「農村の健康管理者」運動の一員として生きがいのある日々を過ごしておりました。住民の健康への関心も高まり、集団健診が実施されるようになり、その普及活動として「明野町健康まつり」の催しがありました。その時「茨城よろこびの会」安島会長のご挨拶があり、壇上の凛とした姿と静かな語り口で「よろこびの会」設立について述べられました。品性と人格のある方を目のあたりに接し感激し早速その夜会長宅へ、入会の電話をしました。その後の私は、会長と会えることが「よろこび」となったのです。

平成 9 年「肝臓」にがんの転移が分かり、安島会長へ再発の電話、会長は即座に病院名・医師名を指定し、転院しなさいとの返事。診断された先生に転院したい旨を話し、レントゲンや診断書等の資料をいただき、夢中で会長のおっしゃった先生の受診を申し込んだところ、窓口で「紹介状が無くてはね」の言葉。私は、受診問診票の余白に会長名と会長が先生を選ばれた理由を書いてやっと窓口を通していただき、先生の診察となりました。9 ヵ月間の入院治療で生かされてきた喜びを噛み締めながら、無事に退院することができたのです。68 歳より「骨」への転移も出て、通院治療などもあり、32 年間の闘病になります。会長のアドバイスがあって今があることを忘れません。「生きることは 一筋がよく 寒椿」「心から 話せる人の居て涼し」「生かされて生きてる わが身 今朝の花」好きな句を胸に頑張ります。

ありがとうございます。ずっと見守ってくださいね。（合掌）

故 安島名誉会長を偲ぶ

会員　黒羽　勝江

＜詠草三首＞　友が逝き師もまた帰らぬこの春の桜見上ぐる思い深めて
はらはらと散りゆく花の留処なく吾が空洞埋めるものなし
朝明けを北に指しゆく白鳥の歓声ひび交うまほろばの空

天国に届く携帯電話があったならと思う日々であり「お元気ですか？」と言ってみたい・・・あの笑顔に逢いたいです。長い間お世話になりました。自らも病を持ちながら会員の方の相談にのっていただきました。どんなに癒されたことか・・・只々感謝です。また未熟な私を育てていただき、ありがとうございました。安島会長との出会いは、人生の宝です。また、元水戸医療センター病院長の村上 穆先生の叙勲祝賀会の折は、お祝いの三段重ね御赤飯を献上させていただいたことも、会長のお力添えあってこそと、今でも私の誇りです。なかなか出来ない事をさせていただき、大切な思い出として胸の奥深くしまっております。思い出はたくさんありますのに今はその糸も切れ、心の空洞に埋まるものがありません。安島会長、どうぞ天国の星となって会員の方々を見守ってください。

安島前会長の御冥福を心よりお祈り申し上げます

会員　中崎　三千代

安島名誉会長のご冥福を心よりお祈り申し上げます。紺の背広にきちっとネクタイをしめ、いつもすっきりと背筋を伸ばし、万年青年のような若々しいお姿が今も目に浮かびます。

当会に入会し 20 年。それ以来ずっと長年にわたり、兄のように、時にはまた父のような寛容な優しい眼差しで、私たち会員を見守ってくださいましたね。肝臓を半分摘出し、4 ヵ月にも満たない私を、全国大会表彰欠席者の代理で参加してくれないかと誘われ、片道 7 時間もの遠路をバスにゆられ、長野県へ。それは私にとって生涯忘れられない良き思い出です。宿で、「中崎さん、肝臓は半分無くしても、またすぐ元の大きさに戻るんですよ・・・」と。その言葉がどれ程うれしく私に勇気をくれたことでしょう。

4 度も大手術を受けながら、今もこうしてどうにか頑張れるのも、そうした励ましのおかげかと思います。長い間、本当に有り難うございました。どうか安らかにおやすみください。（合掌 H26 年 4 月）

安島会長に感謝

会員　貴志　節子

安島会長との出合いは 17 年前になります。健康だった主人が「胃がん」と宣告され、身体の不調、不安で眠れぬ日々で悶々としておりました時、インターネットで安島会長を知り、電話をしました。会長も同じ病気で、今では回復して元気になっておられる等いろいろお話してくださり、そのことで主人はすっかり元気をとり戻し、暗い気持ちから救われたのです。もし会長のお話がなかったら生きている心地もなかっただろうと思います。このご恩は深く忘れることは出来ません。安島会長、有り難うございました。感謝の気持でいっぱいです。どうか安らかに天国でお眠り下さいますようお祈り申し上げます。

祈りのなかで

会員　清藤　光子

平成 26 年 3 月 17 日、安島名誉会長の訃報連絡があり、突然のことでショックを受け頭の整理がつきませんでした。もう、いらっしゃらないかと思うと寂しいです。奥様の落胆ぶりが目に浮かびます。

30 年の長きにわたり、がん患者、家族の相談にあたり、がん撲滅と啓発を目標に掲げ、生涯を通して使命感の塊のような方でした。誰もが到達できない充実した生活を送られて来たことに敬意を表したいと存じます。

安島さんとの出会いは、18 年前、主人が悪性の進行がんでステージ 4 の直腸がんにかかり、余命 1 年から 3 年と告知された時でした。心が折れそうな絶望と恐怖の中、家族として主人をどのように支えていったらいいのか不安で何をしていいか分からない時に、新聞で「茨城よろこびの会」を知り、入会しました。それ以来、がんフォーラムでの無料相談、安島さんご自身の体験を通してのアドバイス、薬についても詳しく、何でも調べてくださり、とても安心したのを覚えています。しかし、主人の病状が厳しい状況になると、自宅と安島さんの会社が近かったので、勝手に「私のかけこみ寺」と思い、相談にのっていただきました。嫌な顔ひとつせず、取り乱している私の話を静かに傾聴し進むべき道筋のアドバイスをくださり、帰る時には少し落ち着きを取り戻した気がしました。また、安島さんは、とても筆まめで幾度も励ましの、お手紙いただきましたね。当時、私は、心配のあまり胃には潰瘍がいっぱい出来て、何回も胃カメラ検査をしていました。そんな時の励ましの手紙は、私にとって何よりの特効薬でした。本当に「力」となっていただき、ありがたかったです。晩年はご自身も闘病中にもかかわらず、会報に情報を提供し続け、会のために心血注いでくださいました。これからも会員の一人として微力ながら協力させていただきたいと思っています。どうぞ、天国から優しく見守っていてくださいね。祈りのなかで　感謝をこめて。

安島前会長を偲んで

会員　山口　儀己

私が安島前会長の「茨城よろこびの会」を知ったのは、2004 年の時でした。当時、東海村にあった晴嵐荘病院で肺がんの右上葉切除手術をして退院した時で、患者会があるという事を知り、安島会長を直接訪れたのが最初の出逢いです。その後、何かと個人的な悩み等聞いていただき、たくさんのアドバイスを受けたことに感謝しています。当時は、今の事務所の前の事務所、確か 3 階で安島会長もお元気で部下と共に働いていたと記憶しております。当時、がん患者が書かれた闘病記も 2～3 冊頂いて帰ってきました。

また、安島前会長に誘われて現会長と共に、茨城放送の生番組に出演し、早期発見・早期治療の大切さを、お話しさせていただいたのも、思い出深いひとつの印象的な出来事となっています。

また、安島前会長は、「がん」に対する情報収集や勉強を大変されていて誰もがその知識には驚かされたものでした。その当時から、パソコンを使いこなしていたことでも一歩先を歩んでいたように感じました。88 歳まで自分の病気と闘いながら、「茨城よろこびの会」のため、度々寄稿文を寄せられ、会員に元気を与えてくださることは随分と心強いことでした。長い間、本当に有り難うございました。

がん体験記　（平成 25 年度がん予防推進員養成講習会で講演された内容です）

会員　八重樫　眞人

八重樫と申します。52 歳になる会社員です。2005 年会社の健康診断で胸のレントゲンに白い影が写り再検査を勧められたのが、43 歳でした。数年前にも似たような指導を受け、再検査の結果は問題無く、この時一日 40 本以上のヘビースモーカーでもあり、仕事柄、多少の異常が見つかっても大丈夫と不安をごまかしていました。

再検査の結果、一番聞きたくない病名とは違い「マイコプラズマ肺炎」の診断に嬉しさすら感じていました。それから数ヵ月、徐々に咳がひどくなり繰り返し診察を受けましたが、咳止めの処方を繰り返すだけでした。1 年後の 2006 年 5 月中旬、一番聞きたくなかった病名を聞くことになりました。人生初のがん告知、右肺気管部の「扁平上皮がんステージⅢB」でした。一人息子の小学校入学式の翌月でした。告知を受けた私は「死にたくない」では無く、「死ぬわけにはいかない！！」と心でつぶやいていました。

この年、小学校に入学した息子は引っ越しで幼稚園時の友達が一人もいない学校へ通うこととなり「お父さんと同じ小学校へ行く」と毎日遊んでいた友達がいない寂しさに、登校を渋る日が続いていました。

そんな矢先に息子と家内を残しての入院には決意も鈍りましたが、この子が独り立ちするまでは「死ぬわけにはいかない」その想いがどんなに辛い治療でも受けると決断させました。そのため、当時の国立がんセンターでの治療を選びました。最終検査の結果、採取した腫瘍が悪性ならば国立がんセンターで治療を受けたいと、私にがんを告知した医師に希望を伝えました。この時の私はセカンドオピニオンなど言葉も仕組みも知らず、「死ねない」ただその為に結果としてセカンドオビニオンを使っていました。告知から暫くして希望通り、国立がん研究センター東病院での診察を受けることができ、私と家族に幸運が訪れました。がんセンター医師の「茨城にも腕の良い医者はいるよ」の言葉と迅速な手配で、紹介を受けた茨城県立中央病院の先生方の対応に私と家族は本当に救われました。ステージⅢB に変わりはありませんでした。はじめに私に「がん」を告知した医師は、治療方法に対する質問に言葉はなく、辛い表情で首を傾げるだけで、それはまるで治療方法はないと受け取れる態度で、『俺はこれからどうすれば、家族にとって必要な時間を生きられるのか？』表現のしようがない重しが心の中に落とされたようでした。県立中央病院の先生方は「先日、80 歳近い人があなたと同じ症状で手術をしたばかりだから大丈夫」と笑ってくれました。告知を受けてから数週間、忘れていた安心感を久しぶりで感じました。

治療に向けていくつかの検査をした結果、かなり難易度が高い手術だと告げられましたが、「全力で挑みます」との先生方の迷いのない言葉に、私は生きる為に手術を受ける以外の選択肢は考えませんでした。私共夫婦の 7 回目の結婚記念日に右肺全摘出の手術を受けました。予想に反してリンパ節への転移もほとんどなく予定よりも 1 時間ほど早く手術が終わりました。

術後は見事に痩せ細り、点滴台を支えにしなければ歩けなく、看病の為、世界で一番苦労をかけたのは妻であり、予想以上に負担（ストレス）を掛けたのは小学 1 年の息子でした。妻は毎日、息子を登校させ家事を済ませてから、高速道路を片道 1 時間かけ病院に通い、息子の学校が終わる時間に合わせ、「また明日」と 1 時間の道のりを帰っていきました。土日のいずれかは息子と 2 人分のお弁当を作り、お昼から夕方まで病室にいてくれました。術後、膿胸併発があり、退院予定が延び入院から 2 ヵ月半後の退院となりました。その後、繰り返しの治療で私自身も気持ちにゆとりが持てず、息子にはスポーツ少年団や当たり前の小学校の楽しみを経験させてやれず 4 年が過ぎてしまい、大きな負担をかけてしまいました。その時間を取り戻せないことが悔やまれます。20 kg以上痩せ、左肺 1 つの体を世の中に戻すのには、退院から更に 2 ヵ月かかってしまいましたが、無事社会復帰を果たした初日の仕事場の風は、これ以上ないほど嬉しいものでした。

術後、無事過ごした１年目のPET・CT等の検査で再発転移は確認されず、難しい手術であったため、気管の接合部を確認したいとの先生方の希望で気管支鏡検査を行いました。問題なく検査を終わろうとカメラを抜き取る間際に見つけられた３㎜に満たない小さな再発。再び襲ってきた「気管支のがん」に今度は、抗がん剤４クールでの戦いになりました。３クール終了後、免疫力が下がり原発切除治療で空になった右胸の中に膿胸が目を覚ましてしまいました。治療のため、「開窓術」を受けることになり肋骨を３本外して右胸に私の拳が入る位の穴を開けました。７年経った今でも多少は小さくなりましたが、女性の拳であれば楽に入る大きさの穴が右胸に開いていて、１日２回のガーゼ交換と、開いた胸の中をシャワーで洗う作業は、欠かせません。２年程前までガーゼ交換は妻にお願いしていましたが、ガーゼ交換の時、空っぽの胸の奥に心臓の動きが見えるそうです。

開窓術のため、ストップしていた４クール目の治療も無事に終え、再び会社復帰することができましたが、２回のがん治療を含めてサバイバーとしての２年近い生活は、私以上に妻への負担が大きく、私の闘病が誘因かの如く妻が難病の診断を受けることに・・・。妻の治療に進展が見られず、セカンドオピニオンで東京都内の大学病院で入院治療を決め、今度は小３になる息子と学童保育と勤務先や友人の協力を得て慣れない生活が始まりました。妻の入院から３ヵ月後、私が半年ごとに受けていたPET・CTで上咽頭がんが見つかりました。３年目で３度目のがんです。妻の退院を待って放射線治療開始としましたが、私の体がそれを待てず高熱と止まらない咳で深夜の救急搬送となり息子には、申し訳なく一時期両親のいない淋しい生活をさせてしまいました。上咽頭がんでの放射線治療の数時間後、気が付くと片足が勝手にリズムを刻み、数分間後には座っている事にも我慢できず、部屋の中を壁伝いにグルグルと歩き回ります。３度のがん治療の中で私にとっては一番の苦痛となる副作用となり、この症状を抑える方法は強めの安定剤以外ありませんでした。

治療を終え社会復帰ができた数ヵ月後、３度目のがん治療を経験した者へ吹く残念な向かい風を感じ始めた頃、世の中にはどの位自分と同じ経験をした人がいるのか？今、その人達はどうしているのか？同じ体験をした人達と話がしてみたいと思うようになり、慣れない検索から、CPSP（がん患者支援プロジェクト）を見つけ、そこからリレー・フォー・ライフを知り参加してみたい、がん経験者の集まりに入ってみたい！と思うようになりました。今年５年目を迎える茨城リレー・フォー・ライフ初参加となりました。昨年から開催当日現場スタッフとしてつくばの会場や、他にも数ヵ所の会場に参加しています。同時に３年前から「茨城よろこびの会」に、翌年からは、東海村の「がん患者ゆっくり語ろう会」にも入会させていただき、多くの先輩サバイバー（※）の友人を増やしています。

私はがんの告知を受けましたが、運よく、家族と職場の協力を得て治療に専念することができました。それでもまだまだ、サバイバーへの向かい風を受けて、社会からの理解を得られない時があり、自分の中の偏見を消し去ることが出来ません。吹く向かい風は多々ありますが、世の中の人全てががん患者への対応を学んでいる訳ではなく、また学ぶ機会も無く、大半の人は患者への接し方を知らないのが現実であり、生きづらい現実が多く存在することも事実です。もし、身近な人が残念ながら告知を受けサバイバーとなってしまったら、落ち着いた時に、少し目線を変えると周りにも同じ仲間が意外と近くにいるかも知れないと伝えてください。家族や親友と違ったポジションで治療や生活の力となります。医療は日々想像を超えて進歩していますが、がんが未だ死と隣り合わせの病である以上、同志の繋がりはがんに立ち向かう勇気と決意を与えてくれる、もう一つの大きな治療法となるのですから。これからもサバイバーがくじけないようにほんの少しだけ力を貸してください。よろしくお願いいたします。

※（がん）サバイバー・・・がんと診断され、治療中あるいは治療後の人（がん体験者）。がんと診断された後、今を自分らしく生きようとする人たちを指すアメリカ発の考え方。

リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2014 茨城に参加して

レディスピア県央　綿引　みさ子

5 月 17 日（土）快晴、新緑が眩しいこの日、水戸駅南口より 6 人で高速バスにて、会場の研究学園駅前公園へ行く。会場は、いくつもの参加団体がテントを張り、準備をしていました。男性会員 2 人と合流し、私は初参加で皆様に助けられ、元気と生きる力をいただき一日リレーに参加することができました。会場では、医療学校の学生によるハンドマッサージを体験したり、学生さんとの会話で実行委員・学生さんなど大勢の方々の協力があってのリレー・フォー・ライフだと実感しました。ありがとうございました。一日一生です。

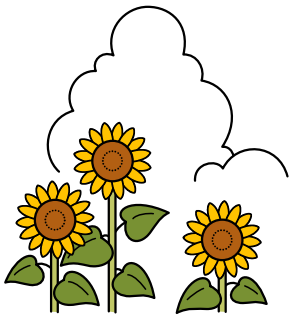
行事予定

○レディスピア県西例会　8 月　2 日（土）13：00～　しもだて地域交流センター　アルテリオ
9 月　6 日（土）13：00～　〃

○レディスピア県央例会　8 月 21 日（木）10：00～　水戸赤塚駅前ミオスビル　ボランティア室
9 月 11 日（木）10：00～　〃

○県政出前講座

・日　時　平成 26 年 10 月 9 日（木）時間未定
・場　所　水戸赤塚駅前ミオスビル　ボランティア室
・内　容　「循環器疾患について」
・講　師　茨城県立中央病院　循環器科外科部長　秋島 信二 先生



○第 22 回がんフォーラム（予定）

・日　時　平成 26 年 10 月 25 日（土）時間未定
・場　所　茨城県立健康プラザ（水戸市笠原町 993－2）
・講　演　「前立腺がんロボット支援手術と今後の展望」
・講　師　日立総合病院副院長　堤　雅一 先生（泌尿器科）

編集後記

3 月 17 日安島名誉会長が逝去され、早や 3 ヵ月が過ぎました。「会報よろこび創刊号（第 1 号）」を発行してから、第 77 号に至った今日、「安島名誉会長を偲んで」の特集記事を掲載する広報委員の心痛や計り知れないものがございます。私達は、常に安島名誉会長に寄り掛かり、深い心のパイプで結ばれておりましたから、お別れは痛恨の極みでございます。心からご冥福をお祈りいたします。

過日、歴史同好会で深大寺や武蔵陵墓地に行ってまいりました。そばで有名な深大寺には、白鳳時代の釈迦如来像が安置され、歌碑や句碑も多く、水木しげるの「ゲゲゲの鬼太郎」の店もあり、賑やかでした。武蔵陵墓地の「陵」とは、その他の皇族を葬る所。「墓」とはその他の皇族を葬る所と説明がありました。駐車場から墓地まで約 400mの玉砂利の参道は、両側に京都北山杉が 150 本も植栽され鬱蒼とした荘厳な参道です。ここに大正天皇、貞明皇后、昭和天皇、香淳皇后の 4 陵があります。折しも梅雨入り大雨の中、全く初めての「陵」の参拝でした。年 2 回の歴史探訪ですが、前回は「富岡製糸工場」の見学で、世界遺産になるとは驚きでした。6 月は宮城県で全国よろこびの会総会が開催され、当会からは 7 名が参加しました。被災地、東松島の見学など有意義な大会になりました。（広報委員　石崎　泰子）

発行人　茨城よろこびの会（がん患者と家族の会） 会長　飯田　則子 事務局　（公財）茨城県総合健診協会 〒310-8501　水戸市笠原町 489-5 TEL　029-241-0011（代表） 会長連絡先　080-5429-8950	編集印刷　（株）ビーエムサービス 14700031(04) H18.4.10 取得 〒310-0851　水戸市千波町 1679-6 TEL・FAX　029-305-4477 E メール　info@bm-s.co.jp 担当：武士